

令和5年度

「世界へのトビラ」事業 勉強会 開催報告

- 1 日時： 2024年2月22日（木）13：30～16：30（受付：13：00より）
- 2 場所： 埼玉県浦和合同庁舎 5F 第5会議室（埼玉県国際交流協会のあるビル）
- 3 参加者： 26名（アドバイザー：10、日本人講師：2、外国人講師11、新規登録希望者：3）

【主なテーマ】

- ・ オンラインでの全体会 & 授業のやり方の紹介
- ・ SDGs をテーマにした授業例の紹介
- ・ 授業のグッドプラクティス(good practice) 情報交換

時間		内容	その他詳細
13：00～		受付	
13：30～	10分	あいさつ 令和5年の事業報告	(質疑応答を含む)
13：40～	10分	自己紹介（グループごと）	新しい講師・アドバイザーを中心に
13：50～	60分	事例紹介・情報交換 <全体> ・ オンライン全体会 & 授業のやり方 <グループごと> ・ SDGs をテーマにした授業例 ・ その他授業のグッドプラクティス (good practice)	講師、アドバイザーによるこれまで効果的だった例の紹介
14：50～	20分	来年度以降の活動に向けての意見交換	・ 困っていること ・ 改善したいこと
15：10～	10分	事務局からの連絡事項 / パスワード付き添付資料の扱い方等	
15：20～	10分	休憩	
15：30～	60分	交流会 世界のおやつを楽しもう！ 写真撮影	おやつ・軽食を持ち寄り、交流
16：30		おわり	

令和5年度世界へのトビラ 事業実績報告

32 事業

外国人講師

146 名

アドバイザー
& 日本人講師

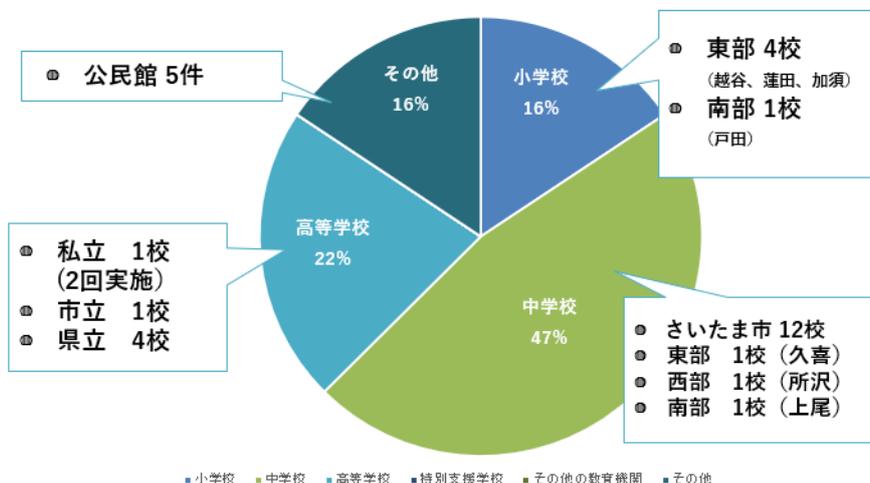
34 名

5692 名参加

令和5年度 世界へのトビラ事業 講師派遣実績

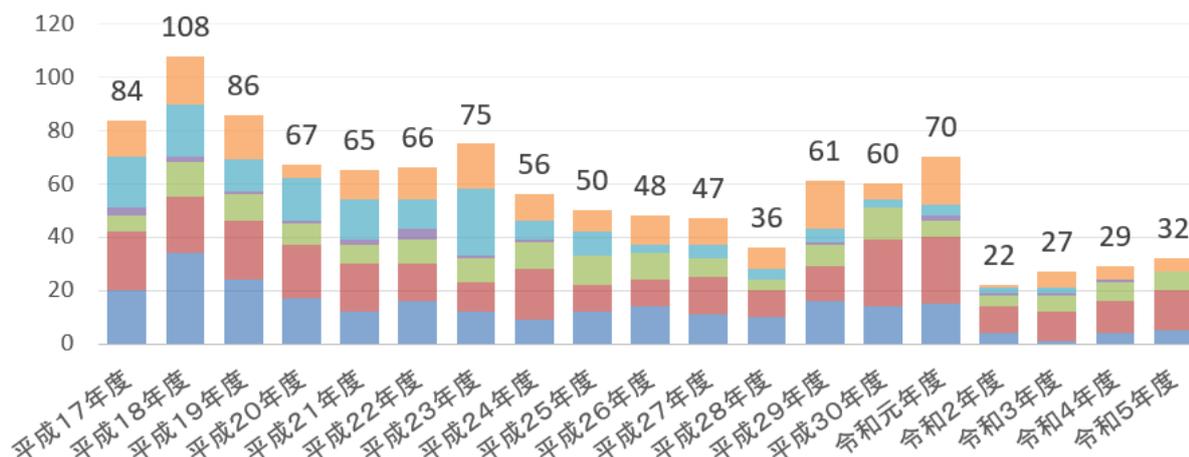
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他の教育機関	その他	計
件数	5	15	7	0	0	5	32
%	16%	47%	22%	0%	0%	16%	100%

派遣実績（令和5年度 32件の内訳）



年度別派遣実績 (平成17年度～令和4年度)

- その他
- その他の教育機関
- 特別支援学校
- 高等学校
- 中学校
- 小学校



登録講師・アドバイザー

(R6年2月時点)

アドバイザー・日本人講師 56名

外国人講師 89名

アジア	インド	1
	インドネシア	3
	韓国	9
	カンボジア	1
	スリランカ	2
	タイ	1
	台湾	3
	中国	16
	中国(ウイグル)	2
	中国(チベット)	1
	中国(香港)	1
	ネパール	2
	パキスタン	1
	バングラデシュ	2
	フィリピン	4
ベトナム	6	
マレーシア	2	
ミャンマー	1	
モンゴル	1	
オセアニア	トンガ王国	1
南米	アルゼンチン	1
	コロンビア	2
	パラグアイ	1
	ブラジル	2
	ペルー	7
ヨーロッパ	イタリア	1
	ウクライナ	1
	スペイン	1
	ハンガリー	1
	ルーマニア	1
中東	ロシア	4
	アフガニスタン	1
アフリカ	トルコ	2
	ギニア	1
	マリ	1
	モロッコ	2



事例紹介・情報交換

① オンラインでの全体会・授業のやり方について

今年度、学校の設備（体育館工事）等の理由で全体会をオンラインで実施する学校や、学級閉鎖で急遽、数クラスのみオンライン開催になった事業がいくつかあった。コロナ禍で学校でのオンライン授業対応が進み、上記のような状況で今後もオンライン授業を開催するケースが増えることが予想される。そのため、オンラインで実施する場合のやり方や工夫について、事例紹介を行った。



<アドバイザー井上さんによる事例紹介>

2コマの授業で、1コマ目のみオンラインで全体会をしたケースを紹介。各クラスとオンラインで繋ぎ、クイズ形式で生徒たちとのコミュニケーションをとった。生徒たちはマイクオフにできない状況だった。まず画面越しの生徒たちに全員立ってもらい、「Aだと思う人、手を挙げて～、Bの人～、Cの

人～」と聞いた後、不正解だった人は座っていく形式で、参加型になるよう工夫した。中国語の漢字クイズも取り入れ、盛り上がりを見せた。（例：空姐→フライトアテンダント）

また、2コマ目のクラス別授業の際、画面越しで見た講師が教室に来るということで、TVの中の有名人が来るかのように盛り上がったことは、オンラインによる意外な効果だった。

<アドバイザー五十洲さんによる、生徒の自宅と繋ぐオンライン授業の工夫について>

学級閉鎖で、急遽1クラスのみオンラインの開催となったケースの紹介。生徒は自宅からオンラインでつながっているが、全員画面オフの状況。リアクションボタンや挙手ボタンを使つての参加を呼び掛けた。講師にとってリアクションがほとんどない中で授業することはとても大変なので、手が空いている教員を教室に集め、授業に参加してもらうなどの工夫をした。

② SDGsに関連する授業について

(小グループ内での意見・情報交換)

グループA：

・講師たちはSDGsの専門家ではない。学校の希望と講師の意向にギャップがある場合、それをアドバ

イザーがうまく調整する必要あり。SDGsについて新しい授業をするのではなく、いつも授業でやっている各国紹介の要素の中から、SDGsにつながる内容をピックアップして伝えると良い。

(例：香港の紙幣はなぜビニールできているのかを紹介するなど)

グループB：

・学校からSDGsについて話してくださいという漠然とした依頼があった際に、講師としては依頼を受けづらい。SDGsの中でも特にどんなテーマで話してほしいのかなど、内容を絞って講師に提案できると良い。

グループC：

・SDGsと聞くと、世界・社会で起きている(自分には遠い)大きなことと思いがちだが、身近なことや小さなことでもすべてSDGsに繋がっている。SDGsで世界が繋がっているということを伝えたい。



グループD：

・自分の国の課題について話す。その際、自分が説明できる範囲でよいが、時には勉強することも必要。トピックアイデアの例としては、リチウム電池、児童労働、土壌・水質汚染、再生可能エネルギー、環境問題についてなど。



グループE：

・コロンビア出身講師から、実際に授業で使っているPPTを使いながらSDGsの授業例を紹介してもらった。コロンビアは教育問題に特に力を入れているとのこと。分かりやすいデータや実際の写真を多く使用していて、とても興味深い内容。

③ 授業のグッドプラクティス(good practice)の紹介

グループA：

・クイズを取り入れて参加型に。その際、○か×かだけではなく、クイズの答えから話を広げることが大切。

・各国の早口言葉を教えると、とても盛り上がる。
・PPTやスライドだけに頼っていると退屈になりが

ちなので、生徒の集中力が切れているときはブレイクを入れたり、講師から生徒へほとんど質問を振る。正解したら褒める。



グループB：

・民族衣装やゲームを取り入れるなど、参加型の授業になるよう工夫する

・質問タイムを設ける

・インターネットで調べたら分かる内容ではなく、講師自身の歴史や来日ストーリーなど、ひとりの生身の人間として語るのが一番生徒たちの心に残る。

グループC：

・日本との違いや、同じところについても紹介

・民族衣装や髪飾りなどを体験してもらおう

・自分自身の昔の写真を使って文化紹介すると、とても盛り上がる

グループD:

- ・ 小学校、中学校、高校で、それぞれ授業のやり方に工夫が必要。小学校では、物を実際に見せて触ってもらい、楽しく体験してもらおう。中学校では、背景などをより詳しく説明して、生徒に質問させる。高校では、より一歩深めて議論をするように工夫すると良い。
- ・ 講師それぞれ個性があるので、無理しないこと。それぞれに合ったやり方を見つけること。

グループE:

- ・ 様々なトピックについて日本と比較しながら紹介すると、分かりやすい
- ・ 実際に自分が昔住んでいた家の写真など、実際の例を見せるとより興味を持ってもらえる。



来年度に向けての意見交換（協会への提案や質問事項など）

【公募型の講師募集について】

- ・ 今年度からアドバイザーや講師への依頼が一斉募集・公募型になったが、手を挙げる人に偏りがあるため、国や講師のキャラクターなどのバランスに偏りがでている。
- ・ 以前はわざわざ声をかけてもらったから引き受ける気持ちになったが、公募型だと消極的になる自分がある。きっと同じように思っている人も多いのではないかな。
- ・ メールをそもそもちゃんと確認していない講師もいる
- ・ 自分は公募型になって良かったと思う。いつ、どんな事業の募集がかかっているのか、公平に知ることができる。

→（協会より）

公募型、アドバイザーからの声かけ型、どちらもメリットデメリットがある。うまく融合できる形を検討したい。次回以降のオンラインミーティングの議題として、引き続き対話しながら決めていきたい。

【USBメモリ使用について】

- ・ 学校側から直前になってUSBメモリの使用ができないので、事前にデータを送るようリクエストされた。こういったケースが増えているのか？
- ・ 学校側に事前にデータを送ることはOKだが、時間をかけて作成したデータでもあり、自分の家族の写真などプライベートな内容が含まれてこともある。勝手に利用されないように、

授業後はデータの削除を必ずしてもらえよう、学校側に頼んでほしい。

→ (協会より)

個人情報保護やセキュリティー面から、USBメモリを使用できない学校も増えている。

当協会のPCについても、USBメモリは一切使用できない。そのため、学校に事前にデータ送付するなどの対応は今後も増えることが見込まれる。また、授業後のデータ削除については、事前に学校に送付する案内にも書き加えるなど、学校側に周知していきたい。

【講師の授業スタイルや学校へのリクエストについて】

・講師によって、学校のPCを使用したい人、自分のPCを接続したい人、大きめの部屋を希望する人など、学校への準備物リクエストがいろいろとある。講師が多い事業の場合、毎回確認するのに時間がかかるため、講師の情報リストにこれらの情報を加えてほしい。

→ (協会より)

・対象の児童&生徒の年齢や学校のリクエストによって、授業スタイルや内容が変わる可能性もある。載せるとしたらどう情報をアップデートしていくかなど、テクニカルな面でも検討する必要がある。引き続き、検討したい。

【学校からの依頼を増やすためにできること】

・学校の来年度の計画を決める2月下旬～3月上旬のあいだに、本年度実施した学校に来年度も事業を希望するか、するとしたら何月頃かについて、一斉に確認すると良い。担当教員は年度で入れ替わるので、できれば教頭先生が良い。

→ (協会より)

ご意見を受け、本年度内に学校への意向確認、来年度初めに事業チラシ送付を行いたい。

【オンラインでのトビラ授業の可能性】

・現在さいたま市など近隣の学校での授業が多く、なかなか遠方の学校からの依頼がない状況。遠方の学校や、児童・生徒数の少ない学校の子ども・生徒たちにも本事業を通じて国際理解を深める機会をつかっていくために、オンライン授業の可能性を探してほしい。(場合によっては、複数校一緒に参加する機会があってもよいのでは?)

→ (協会より)

本勉強会でもオンライン授業の可能性について学びあった。リアル開催の醍醐味ももちろん

あるが、物理的に機会の少ない子ども・生徒たちへ当事業を届ける可能性について、引き続き検討していきたい。

事務局からの連絡事項

<パスワード付き書式の送付について>

個人情報に係る書類やデータを送付する際、パスワード付きでデータを送付する必要があるが、開けない・見られないと問い合わせをもらうことが多い。パスワード付き書式の取扱い方について、実際のメールデータの例を3パターン見せながら、説明を行った。

後半 交流会開催

今回、数年ぶりに交流会を開催ということで、日本・海外各地のおやつ・軽食を持ち寄り、文化紹介&世界の味を楽しみつつ、和やかな雰囲気の中でアドバイザー・講師の交流が行われた。新たに講師・アドバイザーへの登録希望者の参加も複数あり、いろんな講師やアドバイザーと交流することで、世界へのトビラ事業の具体的なイメージを持っていただくことができた。

